

COBEXの株式取得について

2019年6月17日

当社は、本日（6月17日）COBEXの株式取得について株式譲渡契約を締結いたしました。今後、競争法に基づく関係当局の承認に係る手続き等に入り、2019年7月下旬に株式取得を完了（クロージング）することを見込んでおります。

2019年2月に公表した3カ年中期経営計画「T-2021」におきまして、主力の炭素材料の周辺分野、用途的には自動車関連・エレクトロニクス分野への戦略投資を掲げており、本件は当該戦略投資の一環となります。

本資料は、本件の背景、当社の狙い等につき、補足して説明するものとして準備いたしました。ご理解の一助となれば幸いです。

なお、こちらに掲載されている経済情勢、製品の需要動向等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としており、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

買収対象	COBEX HoldCo GmbH
取得価額	約1,000億円（企業価値ベース）*1
資金調達手法	手元資金、借入（ブリッジローン）*2

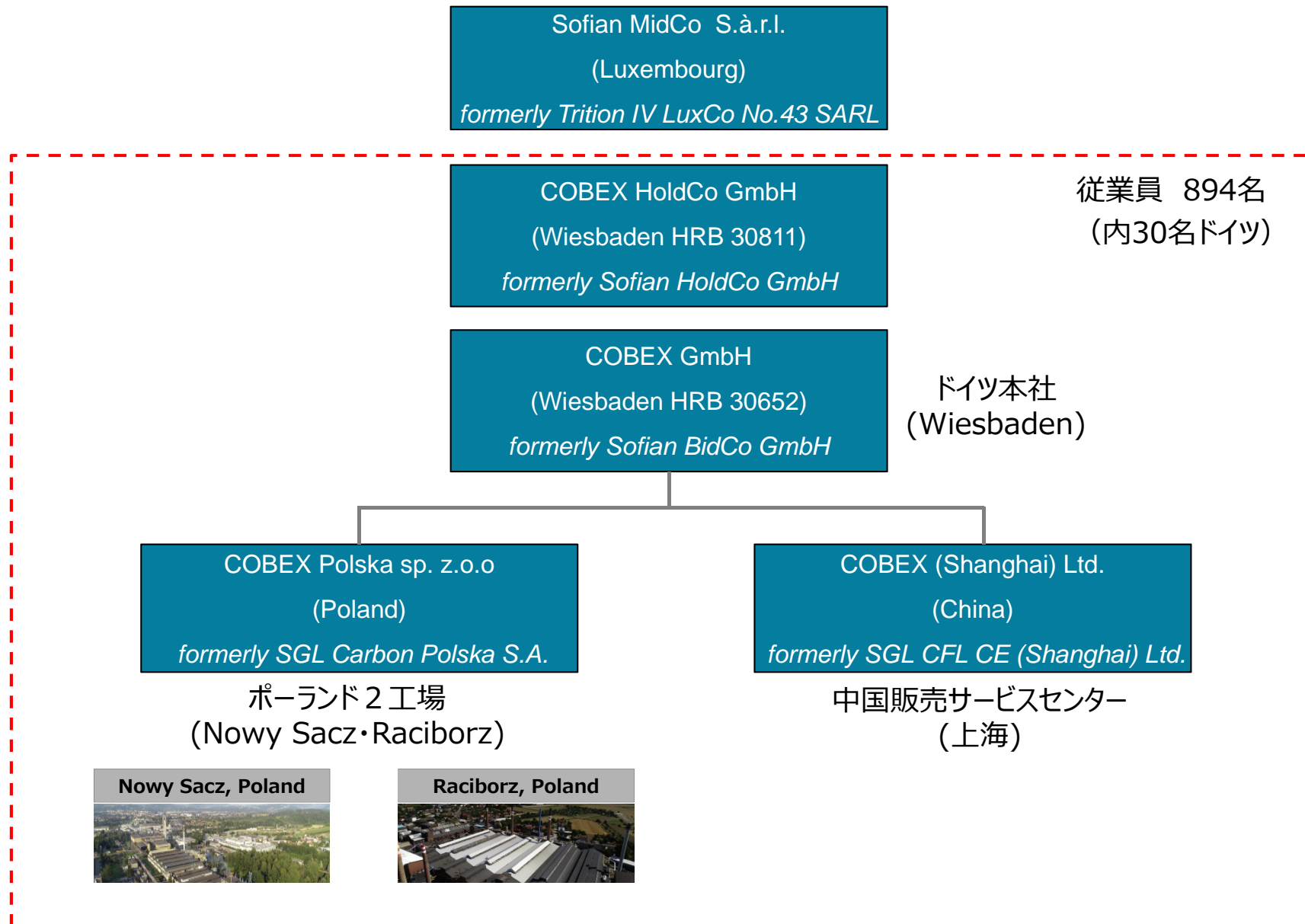
*1 取得価額： 企業価値 = 株式取得の対価 + ネット有利子負債

*2 借入： ブリッジローンにて資金調達後、全部または一部を長期資金へ借り換え予定

社名	COBEX HoldCo GmbH (以下、COBEX社)		
設立年月	2016年9月		
事業概要	アルミ精錬用カソード・高炉用ブロック・炭素電極等の製造、販売、研究開発		
拠点	本社： Wiesbaden ヴィースバーデン (ドイツ・ヘッセン州の州都) 工場： Nowy Sacz ノビスッチ (ポーランド) } 年産能力7万トン Raciborz ラチボルツ (ポーランド)		
業績	2018年12月期	売上高 235百万ユーロ (298億円*)	EBITDA 76百万ユーロ (96億円*)
従業員	約900名		

* 円換算レート： 1ユーロ=127.00円

(三菱UFJ銀行が公表する2018年12月31日における最終の対顧客電信為替相場の仲値)



※赤の点線内が買収対象

- SGL Carbonのアルミ精錬用カソード、高炉用ブロック等のトッププレイヤーへ発展。2016年に分社化され、2017年欧州ファンドTritonが買収し現在に至る

1895年	ポーランドRaciborz市に電極工場設立（ZEW S.A.）
1960年	ポーランドNowy Sacz市にカソード・炭素電極工場設立（Polgraph S.A.）
1995年	ドイツSGL CarbonによるPolgraph買収
2000年	SGL CarbonによるZEW買収
2000年 ～2007年	SGL Carbonのヨーロッパ工場再編の過程で、カソード・高炉ブロック・炭素電極などの事業をポーランドに集約
2016年	SGL Carbonがカソード・高炉用ブロック事業をSGL CFL CE GmbHとして分社化
2017年	TritonがSGL CFL CE GmbHを買収。COBEX GmbHに社名変更（2018年）

- 2工場合計で7万トン/年の炭素黒鉛製品の生産能力は欧州トップクラス
- コスト優位性（労務費、エネルギーコスト）に加え、自動化設備、環境設備が充実

Raciborz

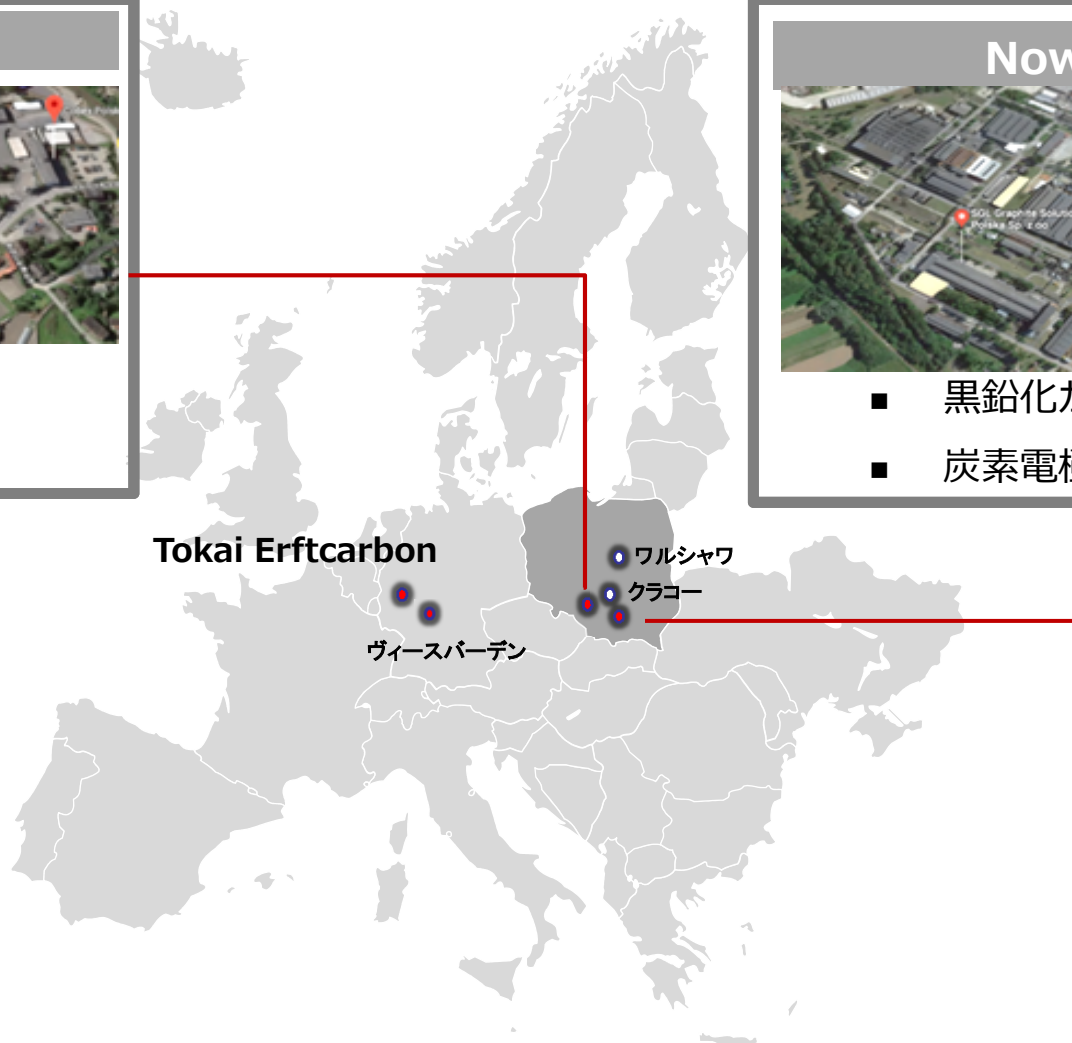


- 炭素質カソード
- 高炉用ブロック

Nowy Sacz



- 黒鉛化カソード
- 炭素電極



- COBEX社は、アルミ精錬用カソード・製鐵所の高炉に使われるブロック・金属シリコンなどの精錬に使われる炭素電極の3分野において世界有数の市場シェアを有している

売上高構成



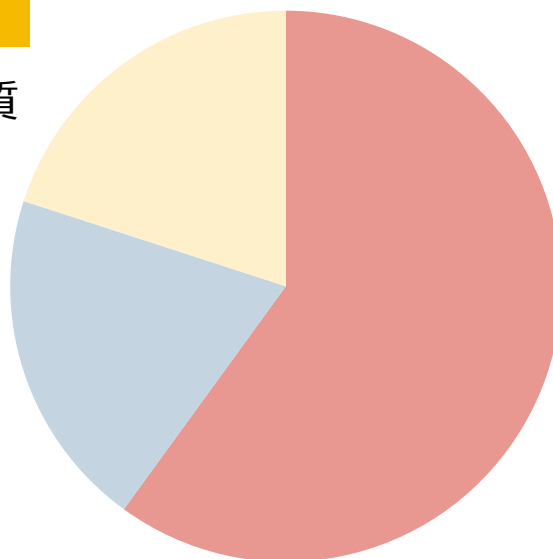
高炉用ブロック

高炉の内張り用の炭素質・黒鉛質のライニング材（高炉ブロック）



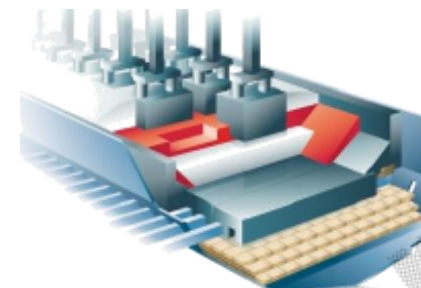
炭素電極

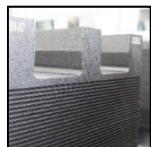
金属シリコン、合金鉄、リン酸などの精錬に使用される炭素電極を製造



アルミ精錬用カソード

アルミ精錬用電解炉のライニングに使用する炭素質・黒鉛質のカソード（陰極）

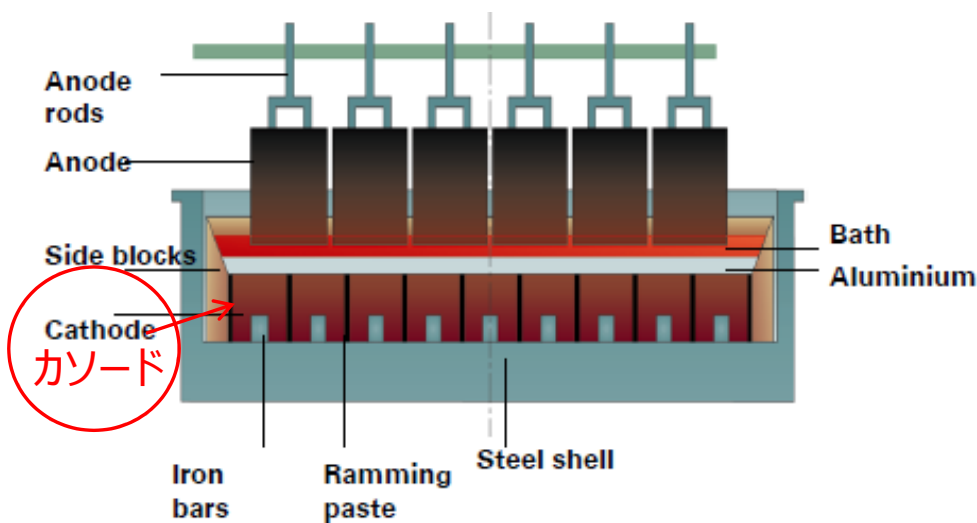




アルミ精錬用カソード

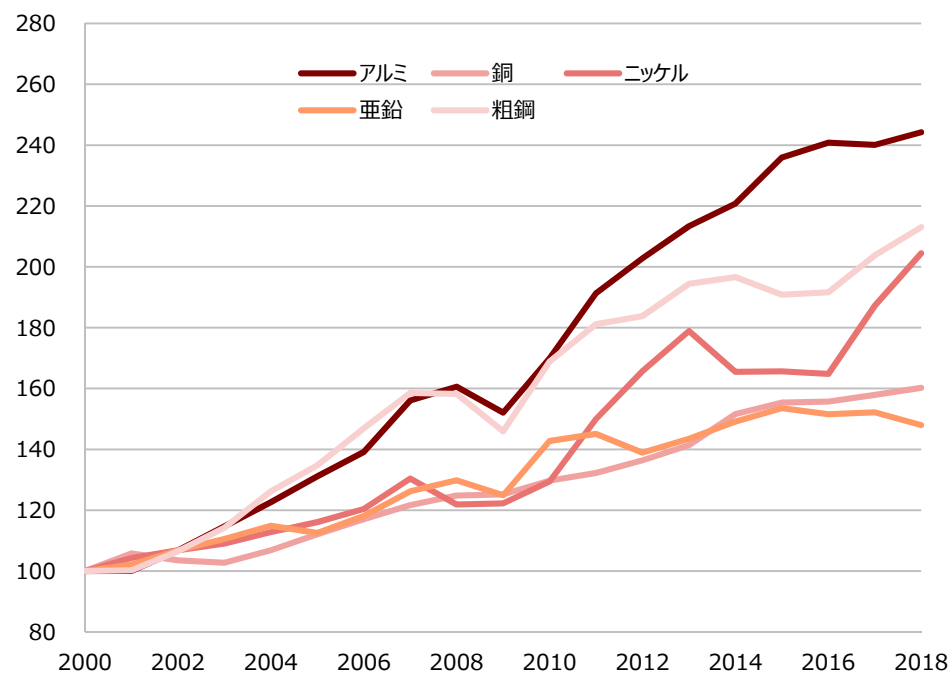
- 炭素質・黒鉛質のカソード（陰極）を供給
- 高ピート率、高参入障壁市場
- 世界アルミ精錬市場においてトップシェア（中国除き）

カソードの用途（アルミ精錬炉）



アルミ精錬炉（ポット）

主要な金属地金製品の世界生産量推移 (2000年 = 100)

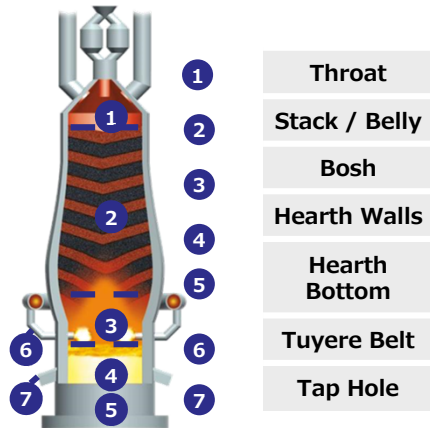


* World Metal Statistics, World Steel Association



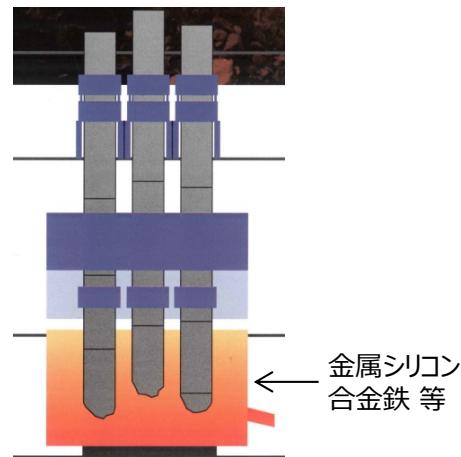
高炉用ブロック

②～⑦ 温度負荷の高い部分に炭素質・黒鉛質のライニング材が使われる



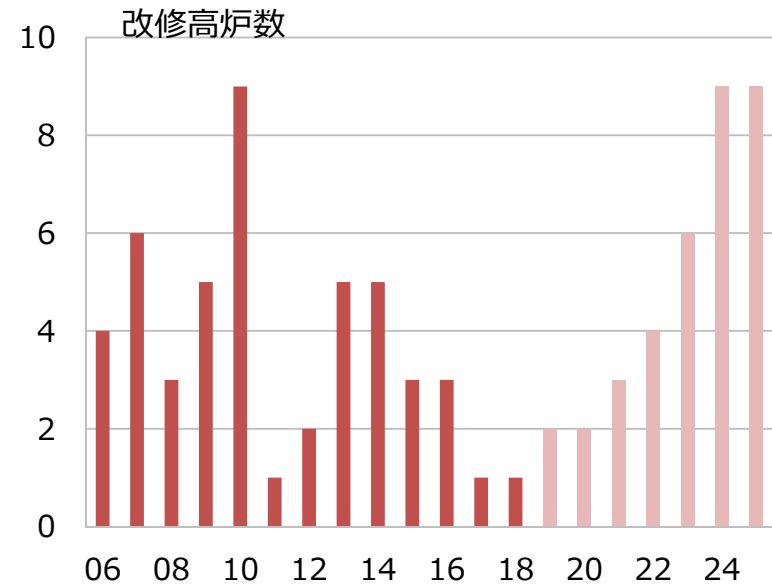
炭素電極

熔融金属の中に直接電極先端を埋没させることからsubmerged arc furnaceと呼ばれる。製鉄用の黒鉛電極とは全く異なる製品



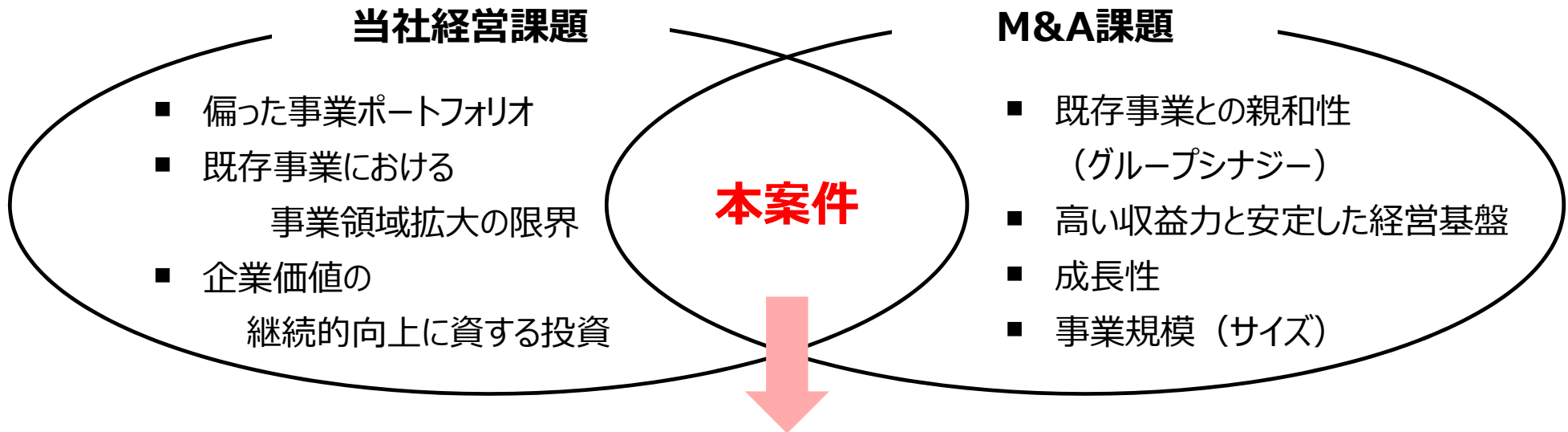
- 中国を含めた世界市場で市場を牽引
- 品質最重要視。高い参入障壁

大型高炉の改修数（東アジア）の見込み



- 中国以外の市場においても地位を確立
- 特殊用途の安定顧客基盤が強み

- 本案件は、当社の抱える経営課題に合致し、長期的な企業価値向上に資する



売上高約300億円 世界有数の市場シェア	事業ポートフォリオ改善 電極、カーボンブラックに次ぐ柱に	安定事業基盤 高い参入障壁・ニッチ高収益事業 優良顧客基盤
コスト競争力 ポーランド工場のコスト競争力 自動化設備	高成長事業への展開 高成長アルミ関連事業への展開	アップサイドシナジー ドイツ黒鉛電極事業、 欧州ファインカーボン事業との連携

- 3事業の世界市場にリーディングプレーヤーとして参入し、事業規模拡大及び収益力向上

- COBEX社は、アルミ精錬用カソード、高炉用ブロック、炭素電極において世界有数の市場シェアを有する。生産能力、顧客基盤、品質技術力で業界を牽引している存在
- 同社は、高機能・高付加価値の黒鉛化カソードの生産、ポーランド工場におけるコスト競争力に強みを持ち、高収益な事業基盤を築いている
- 歴史的に、SGL Carbonの業務集約化によるコストダウン、設備自動化、環境設備への投資により、高い競争優位性を持つ
- さらに、建材分野における都市化の進展や輸送機機器の軽量化ニーズ等を背景にアルミニウムの安定的な成長が見込まれている。カソード需要は安定的に伸長する見通し
- 当社の既存事業ではないが、炭素、黒鉛製造技術では共通した知見があり、親和性が高い。また既存事業ではないため、事業ポートフォリオのバランス化に寄与する

新・中期経営計画 T-2021 基本方針

収益基盤の強化

- コア事業における安定キャッシュフローの創出
- 買収3案件のPMI（グローバル最適生産体制構築）
- 大幅な設備の更新、環境投資

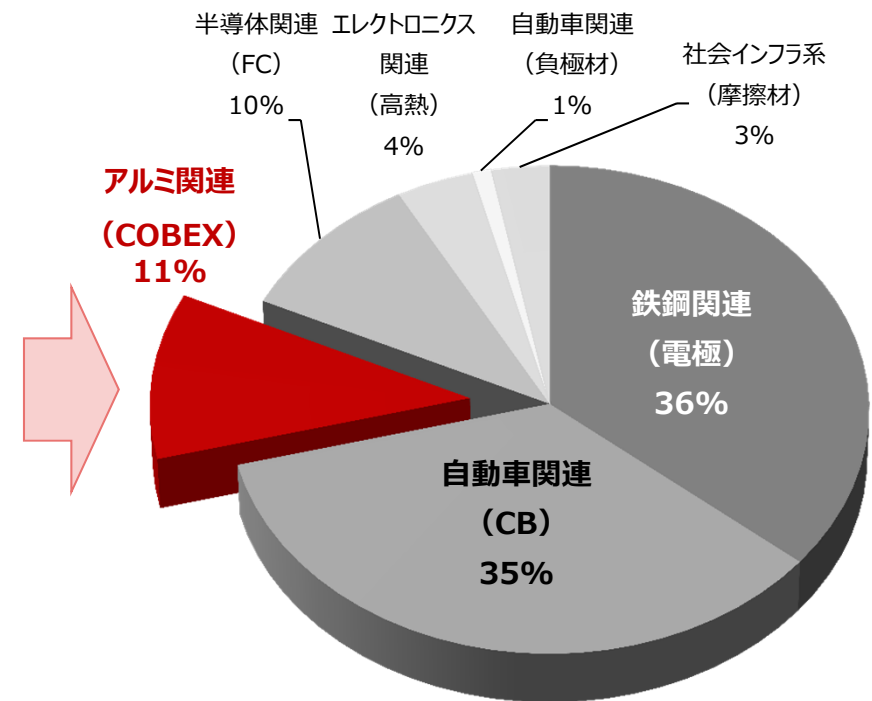
成長機会の拡大

- 成長分野における新規設備投資による能力増強
- 事業及び製品ポートフォリオの最適化
- 戦略分野へのM&A投資は継続
- 技術開発力の強化も取組み継続

連結ガバナンス体制構築

- 本社組織・制度見直し
- 北米統括会社機能の拡充
- 人材の確保、育成

本件後の売上イメージ (通期換算後)



日程

- 契約締結日 : 2019年6月17日
- 株式取得完了日 : 2019年7月下旬見込み
- 本日程は2019年6月17日のものであり、今後の競争法に基づく関係当局の承認に係る手続き状況、その他クローリング条件充足等の事情によっては変更になる可能性があります

業績への影響

- 2019年12月期連結業績に与える影響については、今後精査を行い、業績予想の修正等、開示すべき事項が発生した場合は、速やかに開示いたします

将来の見通しに関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本件に関する連絡先
経営企画室 佐藤 TEL 03-3746-5228